岩手県五葉山にて採集した小獣類

柴　田　敏　隆*

On small mammals collected at Mt. Goyo in Iwate prefecture, northeast Japan.

(with 2 tables)

Toshi. SHIBATA

著者は1960年以来，岩手県下五葉山の鳥獣類の調査を行なってきたが，1963年と64年の2回，trap を用いて小獣類の採集を行ない25個の標本を入手し得たので，その計測値と共に報告する。

小文を草するに当って，前後二回の調査にそれぞれ同行し，助力を頂いた村瀬信義，伊達　睦の両氏，並びに，調査の便宜をはかられた大船渡市役所商工水産課の各位に対してあつく御礼申しあげます。

五葉山の自然景観概要

五葉山は岩手県釜石市と大船渡市とのほぼ中間に位し，北上山脈の南部，遠野花崗岩塊が太平洋に達するところの東南端に近く，大船渡湾より北に約 15 km, 唐円湾より西 11 km, 海抜高 1341.3 m の山頂を有する，南西～北東方向にほぼ同高度のなだらかな稜線をもつ山である。

五葉山は北上山脈では早池峯山（1923.6 m）に次ぐ第二の高峰で，山容は南西～北東に走る主脈を中心に北～西～南西方向に比較的けわしく，山頂より南へ走る大きな支脈を境として東側はゆるやかな傾斜をもっている。全般的には北上山脈に共通する極めておだやかな老年期特有の地形を示しているが，今回採集を行なった主脈より南側の斜面では，おおよそ，山麓部の平坦地，山腹部の傾斜地，山頂地の平坦部の三つの地相に分かれ，それぞれに，植相，鳥相などに特色を見ることができた。

すなわち山麓附近は，植林，農耕，放牧などの影響で自然植生は著しく破壊され，ホオジロ，アカハラ，ビンズイなどの鳥類が量的に優占している。中腹の傾斜地および沢に沿った部分は，火災あるいは伐採などの影響から回復しつつあるミズナラ，ブナ，サワグルミなどの冷温帯性落葉広葉樹林におおわれ，コルリ，キビタキ，ヤマガラなどが多い。山頂部は自然植生が良く保存され，小規模ながら高山植生を持つことは特筆に価する。山頂稜線西部の海抜 1300 m 附近は巨大な母岩が累々と露出し特有の景観を呈し，その間にコケモモ，ガンコウラン，イソツツジ，マンネンスギなどによるお花畠がみられる。また山頂東側の部分および海抜 1200 m 以上の斜面にはコメツガ，ダケカンバ，ナナカマド，オガラバナなどの亜高山性植生が発達し，特に山頂東部のコメツガ林は見事である。また山頂附近南側にゆるやかに広がる平坦部では，良く生育した，ハイマツ，ダケカンバ，ナナカマド，シロバナシャクナゲ，ウラジロノキなどの混交林が発達している。この高山亜高山植生を持つ山頂附近には，ビンズイ，メボソ，カヤクグリ，ルリビタキなどが多く，ホシガラス，ウソ，コマドリ，アマツバメなども棲息している。

* Yokosuka City Museum. 横須賀市博物館

Table 1. Insectivola Talpidae

Urotorichus talpoides hondonis THOMAS (Measured in Spirit)

H. & B.	T.	H.F. (su)	palm (su)	palm (cu)	Greatest breadth of palm	Greatest length of skull	Sex & Age.	Loc. (Alt.)	Date	Note
80	29	14	10	14	6	25	♀ ad.	B	9 IX, '64	
80	28	15	10	13	6	24	♀ ad.	B	9 IX, '64	
90	29	14	8	12	5.5	**	♀ ad.	(1300m)	8 IX, '64	Dead specimen

Table 2. Rodentia. Muridae

Achizomys andersoni THOMAS

Near Osawa hütte, Osawa Valley, Mt. Goyo Sept. 8, 1964

H. & B.	T.	$\frac{T}{H.B.} \times 100$	H.F. (su)	Ear	Greatest length of Skull	Sex & Age	Measured in
115	49	42.6	18	14	26.2	♂ ad.	Spirit

Apodemus speciosus speciosus TEMMINCK (Measured in Spirit)

H. & B.	T.	$\frac{T}{H.B.} \times 100$	H.F. (su)	Ear	Greatest length of Skull	Sex & Age	Date	Loc.	Alt. (m)
103	92*	—	23	14	**	♂ ad.	19 IV, '63	A	1260
93	98	105	23	14	29	♂ ad.	6 IX, '64	C	580
103	101	98	24	15	29	♀ ad.	6 IX, '64	C	580
117	99	85	24	15	30	♀ ad.	9 IX, '64	B	640
107	88	82	23	13	29	♂ ad.	9 IX, '64	B	640
113	110	97	25	16	**	♀ ad.	9 IX, '64	B	640
112	91	81	23	14	29	♂ ad.	9 IX, '64	B	640

Apodemus argenteus argenteus TEMMINCK (Measured in Spirit)

80	96	120	19	12	23	♂ ad.	20 VI, '63		
80	90	112.5	19	13	24	♀ ad.	21 VI, '63	B	640
73	64*	—	19	12	24	♀ ad.	19 VI, '63	B	640
76	81	106.5	19	13	23	♂ ad.	19 VI, '63	A	1200
74	92	124.3	19	12	**	♀ ad.	19 VI, '63	A	1200
83	90	108	18	12	24	♂ ad.	19 VI, '63	A	1260
90	97	107	18	13	**	♀ ad.	19 VI, '63	A	1280
79	98	124	19	13	24	♀ ad.	6 IX, '64	C	580
80	101	126	20	13	23	♀ ad.	6 IX, '64	C	580
83	100	120	20	12	24	♂	9 IX, '64	B	640
79	94	109	19	13	23	♂	9 IX, '64	B	640
76	89	117	19	13	23	♀ ad.	9 IX, '64	B	640
75	83	110	18	12	23	♂ ad.	9 IX, '64	B	640
55	73	132	18	11	20	♂ Sub ad.	9 IX, '64	B	640

* The tip of the tail was missing ** Head crushed by the trap

A. Near the summit B. Osawa Valley C. Remains of Okubo Village

この高山的植生と鳥相は，五葉山の自然の一番大きな特色の一つである。

五葉山は，古くより信仰の対象としての登山が盛んで，往時は女人禁制の山であった。また，伊達藩の御料林として，桧，栂，柏などの森林が比較的良く保存されてきたため，小規模ながらも深山幽谷の趣を具えている。

そのためか，東北地方には珍らしく，サル，シカ，カモシカ，クマ，タヌキ，キツネなどの野獣が相当数棲息する模様で，筆者も，シカ，カモシカ，サルを直接観察している。

五葉山の動物に関する調査研究は従来ほとんど行なわれなかったようで，特に小型哺乳類については皆無のようである。

採集地点の環境

今回の採集は次の三地点で行なった。

A　山頂部，しゃくなげ荘附近より南へ拡がるゆるやかな斜面。

B　大沢，大沢小屋周辺の沢ぞい。

C　大窪開拓部落跡

Aは，海抜 1240 m～1300 m の南面する平坦な斜面で，土壌が良く発達し，樹高 10～20 m に達するダケカンバ林と，それに混在する高さ 2 m ほどのハイマツ，シロバナシャクナゲ林や，さらにナナカマド，オガラバナ，ウラジロノキなどの明るい森林となっていて，2～3 ケ所に湧水を認める。また林床のほとんどはスズタケで被われている。trap は路傍および水場に設置した。

Bは，山頂三角点附近より，南西に走る主脈と，同じく山頂三角点より南へ派生する大きな主脈に挟まれた急峻な峡谷大沢の，海抜 600 m 附近，盛川の源流に沿って左岸を通る登山道に，大沢小屋と称する無人小屋があった（この小屋は大船渡山岳会の手で，登山者のために作られたものであったが，1964年には取壊され，現在はあとかたもない）が，この附近はサワグルミに代表される湿潤林が発達している。trap は，この大沢小屋裏の水場および川沿いの登山道に設置した。

Cは，赤坂峠の南，西風山（851.1 m），笠詰山（885.7 m），大窪山（838 m）をつらねる馬蹄型の稜線に囲まれた凹地で，数年前まで，大窪の開拓部落のあったところで，標高約 600 m ミズナラやブナの混交林で，処々に開拓の痕が残り，現在も牛が放牧されている。ここの開拓部落は戦後入植したものが，寒冷と地味不良，それに鹿の害などが多くて，遂に解散するに至ったものである。trap は部落の廃屋周辺や農道に沿って設置した。

Résumé

Mt. Goyo (alt. 1341.3 m), is situated in the north-eastern part of Japan and is the second highest peak, after Mt. Hayachine (alt. 1923.6 m), of the Kitakami range, characterized by the rolling ridges of old age.

Its slopes are gentle, but the summit presents a characteristic pattern of huge cliffs with a spotting of high altitude plants; from here down to an altitude of about 1000 meters there are forests of semi-alpine evergreens; below these the vegetation has undergone considerable human influence, and consists mainly of forests of cold temperate deciduous trees.

The mountain used to be well-known for the large number of deer, monkeys, bears, etc. that lived wild there.

Till now no reports have been made on the small mammals of Mt. Goyo. The author visited Mt. Goyo in 1963 and 1964 twice and collected small mammals with traps. The author reports 25 specimens with the external measurements.

参 考 文 献

今泉吉典 1949 分類と生態日本哺乳動物図説，洋々書房 348 pp.
今泉吉典 1960 原色日本哺乳類図鑑，保育社 196 pp.
柴田敏隆 1963 みちのくの五葉山行，横須賀市博物館雑報 9：19～29.
柴田敏隆・村瀬信義 1964 蕃殖期における岩手県五葉山の鳥相（予報），横須賀市博物館研究報告 10：56～69.
奥山幹二 1959 五葉山，大船渡市教育委員会 18 pp.